

令和2年度（秦野養護学校）不祥事ゼロプログラムの検証等

○ 項目・目標別実施結果

項 目	目 標	実施結果と目標の達成状況
法令遵守意識の向上(公務外非行の防止、職員行動指針の周知・徹底)	<ul style="list-style-type: none"> ・公務外非行の防止徹底 ・円滑なコミュニケーションの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員行動指針ハンドブックを活用して、服務規律の徹底を図った。 ・例月の自己チェックを実施し、教育公務員として事故不祥事防止について考えることができた。 ・若年層及び臨任の個別面談を実施し、不祥事防止リーフレットを活用した支援に取り組んだ。 ・ストレスチェックで指数68という低い数値となり、ストレスをためない職場環境づくりができた。
児童・生徒へのわいせつ・セクハラ行為の防止	<ul style="list-style-type: none"> ・人権侵害行為の未然防止 ・適切な指導の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・啓発資料の周知や例月の自己チェックを実施し、わいせつ・セクハラに関する意識が向上した。 ・児童生徒の連絡先の適正な取得・管理ができ、携帯電話やメール等の適切な使用を徹底した。 ・教室等の密室化防止のための環境整備及び定期的な巡視を実施した。 ・児童生徒への丁寧で適切な関わりのスタンダードの活用と改善を進め、人権意識を高めた。
体罰、不適切な指導の防止	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の実態をおさえた、体罰によらない適切な指導の徹底 ・児童生徒の人権を尊重した指導の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権尊重の基本的な姿勢として、「あいさつ」「さん付け呼称」の励行を徹底した。 ・授業や指導場面を公開し、職員間で互いに見合う機会が増加した。 ・児童生徒への丁寧で適切な関わりのスタンダードを部門課程の実態に応じて改善し、活用しながらスタンダードの内容の充実が進んだ。
入学者選抜、成績処理、進路関係等の不適切な事務処理の防止及び個人情報等の管理、セキュリティ意識の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・確実な業務遂行の実施 ・個人情報に係る事故の防止 	<ul style="list-style-type: none"> ・システム的に複数でのチェックによる確実な取扱いができた。 ・全体研修を実施し、個人情報の取扱いに関するルールの徹底、個人情報管理の徹底を図った。 ・ヒヤリハット事例はなかったが、学校全体で共有し、相互に注意喚起を促す体制ができた。 ・日頃の机上整理により誤廃棄、紛失を防止した。
交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・酒気帯び運転および飲酒運転防止、交通事故防止、交通法規遵守 	<ul style="list-style-type: none"> ・啓発資料や自己チェックの実施により安全運転への意識向上を図った。 ・事例の即時的な周知等により、安全運転、交通法規遵守の意識向上を図った。
会計事務等の適正執行	<ul style="list-style-type: none"> ・公費及び私費会計の適正な執行・管理 ・備品等の適正な管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会を実施し、私費会計基準及び私費会計マニュアルの周知徹底を図った。 ・私費会計基準に基づく適正執行、ダブルチェックによる適正な管理、処理ができた。
職場のハラスメントの防止	<ul style="list-style-type: none"> ・パワハラ、セクハラ、マタハラをはじめとするハラスメントの未然防止 	<ul style="list-style-type: none"> ・啓発資料の周知や自己チェックを実施した。 ・管理職による個別面談、アンケート等を実施し、相談により未然防止ができた。 ・同僚性を醸成し、ハラスメントのない、気持ちよく働ける職場環境づくりができた。

○ 令和2年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和3年度に取り組むべき課題 (学校長意見)

職員一人ひとりが教育公務員としての立場や行動のあり方を意識して不祥事ゼロプログラムに取り組んだ。不祥事防止研修会は、教職員が不祥事防止に対して主体的に取り組めるよう、テーマに対して学部ごとに協議し課題や成果を発表する全員参加型で実施することで、より身近に不祥事を意識する機会となった。テーマについては、児童・生徒へのわいせつ・セクハラ行為の防止や体罰・不適切な指導の防止等、本校の教職員の基本としての「児童・生徒への丁寧で適切な関わりのスタンダード」を活用した内容と、同僚性の醸成により職員間のチェック機能と職場環境の良化を狙った内容を重点として取り組んだ。日々の取組の積み重ねにより、児童・生徒への人権を尊重した指導や保護者への丁寧な関わりについて保護者より高い評価を得ていることが、今年度の学校評価アンケートの結果から明らかとなった。

次年度も、4つの教育場所を持つという本校の特殊な職場環境を踏まえつつ、人権を尊重した対応、不適切指導の防止、個人情報等の管理の徹底など、教職員が自分事として考えられるように取組を継続、発展させ、不祥事防止に取り組みたい。